

# 文教委員会報告資料

令和4年4月20日

報告事項名	頁
(教育指導部)	
(1) 令和3年度足立区教育委員会事務の点検・評価について……………	2
(2) 令和4年度以降の足立区教育委員会事務の点検・評価について……………	3
(3) 令和3年度足立区立小中学校ICT機器活用に関する効果検証報告について……	4
(4) 「足立はばたき塾」に関する令和3年度塾生の進学状況及び令和4年度実施 内容について……………	1 1
(5) 令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都調査)の調査 結果について……………	1 3
(6) 令和4年度教育課程の方針について……………	1 9
(7) 令和4年度中の欠席連絡ツールの確保について……………	2 0
(8) あだち日本語学習ルームの令和3年度修了判定結果について……………	2 1
(9) 小学校社会科副読本「わたしたちの足立」の改訂方法の見直しについて……………	2 3
(学校運営部)	
(10) 給食調理室エアコン設置に係る取組について……………	2 4
(11) 新田さくら公園の改修工事について……………	2 6
(子ども家庭部)	
報告事項なし	

( 教 育 委 員 会 )

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

件 名	令和3年度足立区教育委員会事務の点検・評価について
所 管 部 課 名	教育指導部 教育政策課、教育指導課
内 容	<p>令和3年度足立区教育委員会事務の点検・評価について、別添資料1のとおり報告書がまとまりましたので、ご報告いたします。</p> <p><b>1 点検・評価のテーマ</b> 日本語指導事業（所管課：教育指導課） 教育委員が日本語適応指導講師、日本語学習ルーム、四中夜間の現場に赴き、点検を行った。</p> <p><b>2 主な意見・要望と今後の方針</b>（別添資料1 P4～5）</p> <p>（1）三つの事業とも、長期休業期間中の日本語学習の継続が課題である。また日本語学習ルームへの通所が困難な場合もあり、自宅等でのオンライン指導の検討をする必要がある。</p> <p>→<b>今後の方針</b> 一人一台のタブレット環境を活かし、児童・生徒がいつでも学べる環境づくりの準備を進める。</p> <p>（2）日本語学習ルームでは、講師の指導力に差があるため研修等の充実を図っていくことが必要である。</p> <p>→<b>今後の方針</b> 国や都の研修事業、第四中学校夜間学級との交流研修等を実施するなどして、レベルアップを図る。</p> <p>（3）日本語学習ルームでは生徒が在籍校で昼食をとるため、指導時間を調整せざるを得ないなど、時間的なロスも見られた。</p> <p>→<b>今後の方針</b> 生徒の状況によっては、日本語学習ルームで給食を提供するなど、時間のロスを減らす工夫に努めていく。</p> <p>（4）第四中学校の養護教諭とスクール・カウンセラーの加配及び各日本語指導事業で使用する教材の共通化を図るべき。</p> <p>→<b>今後の方針</b> 教育委員会の各課の連携をはじめ、国や都の施策事業の活用、人事に関する東京都との折衝等を通して、夜間学級の人的・物的資源の充実を支援していく。</p>
問 題 点 今 後 の 方 針	区HPで公表する。

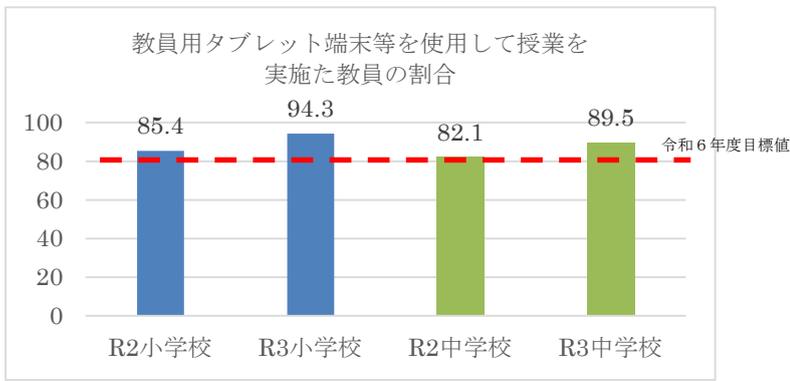
文教委員会報告資料

令和4年4月20日

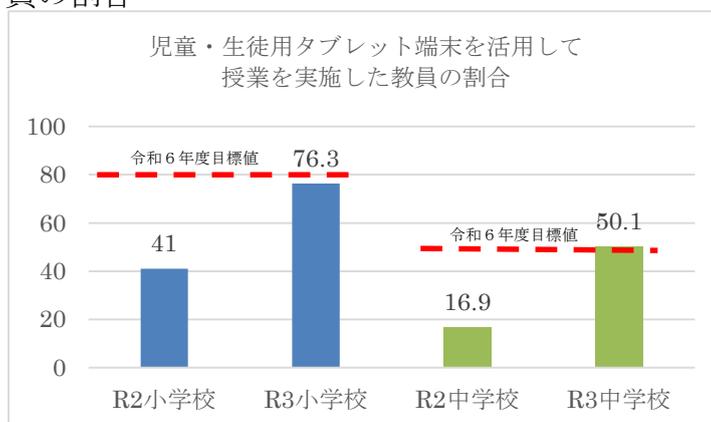
件名	令和4年度以降の足立区教育委員会事務の点検・評価について																																											
所管部課名	教育指導部教育政策課																																											
内容	<p>令和4年度以降の点検・評価について、これまでは教育委員の視察と行政評価を活用して実施してきたが、令和3年度より実施している「足立区教育振興ビジョン点検・評価」を「足立区教育委員会の点検・評価」として運用することとする。</p> <p><b>1 点検・評価方法の変更理由</b></p> <p>(1) 足立区教育振興ビジョンの点検・評価を教育委員会の事務の点検・評価として運用することにより、行政評価の代用ではなく、独自に学識を活用した評価とすることができる。</p> <p>(2) 既存の点検・評価と教育振興ビジョンの点検評価の2つの点検・評価を一本化でき、省力化が図れる。</p> <p>(3) 教育施策・事業の大半が対象となり、点検・評価として十分に機能し、効果的である。</p> <p><b>2 「教育委員会の事務の点検・評価」の評価スケジュールについて</b></p> <p>令和3年度に実施した「足立区教育振興ビジョン点検・評価」では計画に示す全ての施策を対象に評価を実施したが、より深い点検・評価が実施できるよう、各年度の評価対象を絞り、令和4年度から7年度までの4年間で全ての施策を2回評価できるよう、以下のスケジュールで実施する。</p> <p><b>点検・評価スケジュール</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>評価年度</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="5">新計画の評価開始(評価サイクルは改定後の計画の体系を見て検討)</td> </tr> <tr> <td>施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現計画(令和2年度～6年度)の改定に向け、分野毎の学識に加え、学校長ら関係者を点検・評価委員に加えて全施策の点検・評価を実施する。</p> <p>現計画期間(令和2年～6年度) → 新計画がスタート(計画期間未定)</p>						評価対象	評価年度	R4	R5	R6	R7	R8	施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援		○	○			新計画の評価開始(評価サイクルは改定後の計画の体系を見て検討)	施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み			○	○		施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実			○		○	施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実		○	○			施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援			○	○	
評価対象	評価年度	R4	R5	R6	R7	R8																																						
施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援		○	○			新計画の評価開始(評価サイクルは改定後の計画の体系を見て検討)																																						
施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み			○	○																																								
施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実			○		○																																							
施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実		○	○																																									
施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援			○	○																																								
問題点 今後の方針	令和4年度の点検・評価は足立区教育振興ビジョンを活用した新たな運用方法に基づき実施していく。																																											

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

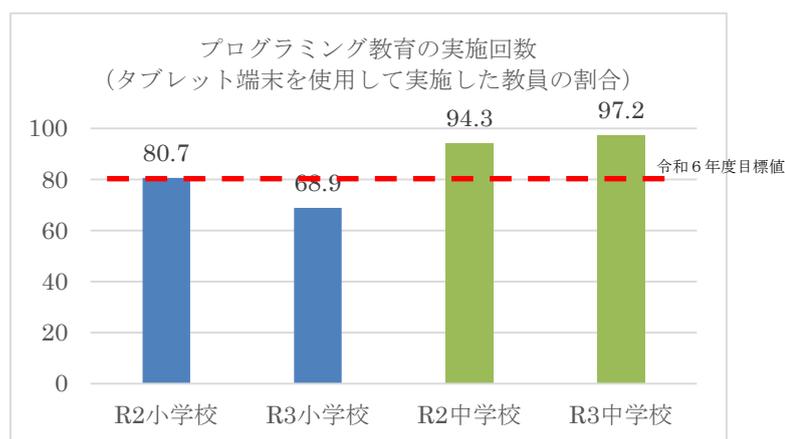
件 名	令和3年度足立区立小中学校ICT機器活用に関する効果検証報告について								
所 管 部 課 名	教育指導部学校ICT推進担当課								
内 容	<p>令和3年度を対象としたICT機器効果検証の結果について報告する。タブレット端末の児童や生徒1人1台の配備は令和3年9月に完了している。</p> <p><b>1 効果検証方法について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員を対象としたWeb回答方式によるアンケート調査</li> <li>・ 実施時期：令和4年1月17日から同2月4日</li> <li>・ 対象：小・中学校で1人1台端末を付与されている教員全員 (有効回答者数：1,983名＝小1,284名、中699名)</li> </ul> <p><b>2 主な検証結果と分析</b> (※ 対象等の詳細はP10を参照)</p> <p>(1) 足立区教育振興ビジョンの活動指標に関する結果</p> <p>ア 指標一覧</p> <table border="1" data-bbox="470 1075 1385 1444"> <thead> <tr> <th>活 動 指 標</th> <th>目標年度(令和6年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合</td> <td>小学校 80% 中学校 80%</td> </tr> <tr> <td>児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合</td> <td>小学校 80% 中学校 50%</td> </tr> <tr> <td>プログラミング教育の実施回数 (タブレット端末使用・教員の割合)</td> <td>小学校 80% 中学校 80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 結果</p> <p>① 教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合</p>  <p>・ 教員の端末活用は、小中ともに目標値を超えており、活用が定着してきている。</p>	活 動 指 標	目標年度(令和6年度)	教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合	小学校 80% 中学校 80%	児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合	小学校 80% 中学校 50%	プログラミング教育の実施回数 (タブレット端末使用・教員の割合)	小学校 80% 中学校 80%
活 動 指 標	目標年度(令和6年度)								
教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合	小学校 80% 中学校 80%								
児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合	小学校 80% 中学校 50%								
プログラミング教育の実施回数 (タブレット端末使用・教員の割合)	小学校 80% 中学校 80%								

② 児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合



- ・ 小中ともに活用が前年度から大幅に増加して、中学校においては6年度末目標を達成することができた。
- ・ 今後は足立タイピングチャレンジなどの低学年でも取り組める啓発活動の実施や、モデル校による好事例の紹介などを通じて、活用を促進していく。

③ プログラミング教育の実施回数（タブレット端末使用・教員の割合）



- ・ 小学校で実施が減少した。休校や選択登校にともなう授業時間を確保するために、時数指定のないプログラミング教育に関する授業を圧縮したことが主な要因と考えている。
- ・ 小学校5、6年生、中学校技術科において、プログラミング教育の実施がなかった教員はいない。

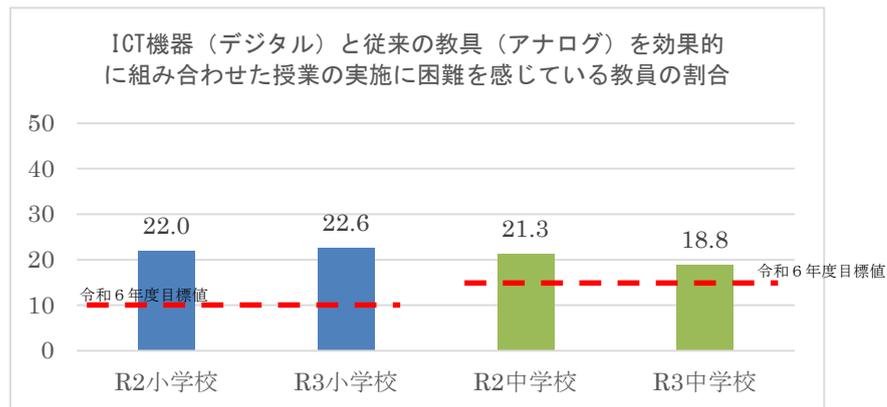
(2) 足立区 ICT 教育推進の基本方針指標に関する結果

ア 指標一覧

活動指標	目標年度(令和6年度)
ICT 機器(デジタル)と従来の教具(アナログ)を効果的に組み合わせた授業の実施に困難を感じている教員の割合	小学校 10%未満 中学校 15%未満
【新設項目】 授業で児童・生徒に学習用アプリケーション(eライブラリ)を活用させた教員の割合	令和4年度に設定
【新設項目】 授業の中で子ども達の端末を使ってインターネット検索を行わせた教員の割合	
【新設項目】 協働的な学習の中で児童・生徒にプレゼン機能を活用させた教員の割合	小学校 70% 中学校 60%

イ 結果

- ① ICT 機器(デジタル)と従来の教具(アナログ)を効果的に組み合わせた授業の実施に困難を感じている教員の割合

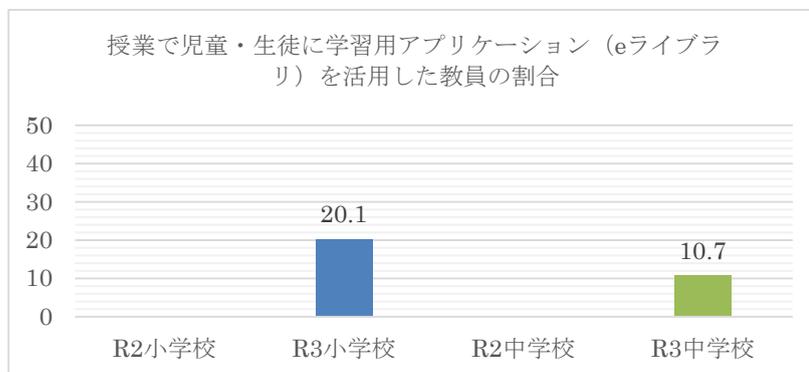


- 前年比では、小学校はほぼ横ばい、中学校は約1割減少している。

(P 9「主な課題と今後の対応方針」参照)

② 【新設項目】

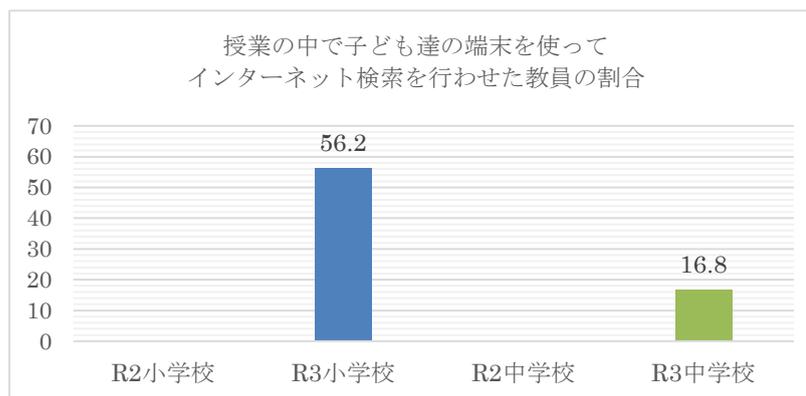
授業で児童・生徒に学習用アプリケーション（eライブラリ）を活用させた教員の割合



- ・ 新規指標のため令和2年度は測定なし。
- ・ 令和6年度目標は令和4年度に再設定。
- ・ 授業での活用は低調だが、放課後補習や家庭学習、宿題等で利用している学校が多い。

③ 【新設項目】

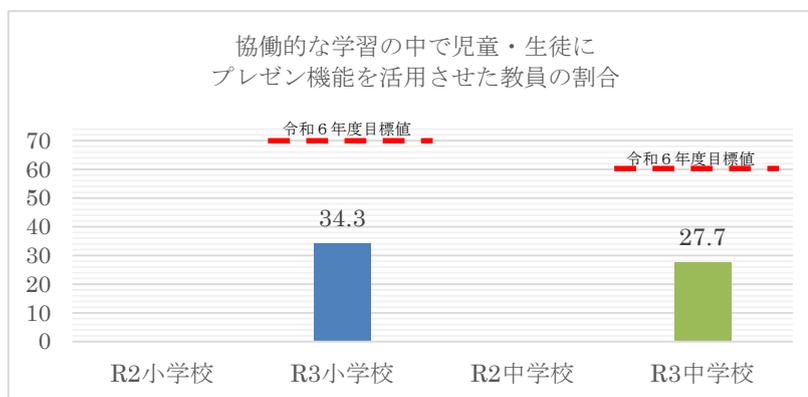
授業の中で子ども達の端末を使ってインターネット検索を行わせた教員の割合



- ・ 新規指標のため令和2年度は測定なし
- ・ 令和6年度目標は令和4年度に再設定
- ・ 中学校の活用が低調だった要因としては、休校等により授業時間の確保が課題となり、知識伝達型の授業を優先したことが考えられる。
- ・ 今後は、調べ学習や協働学習が、原則として年間計画通りに実施できるよう、学校訪問等を通して指導主事による進行管理や、活用方法について指導や助言を行う。

④ 【新設項目】

協働的な学習の中で児童・生徒にプレゼン機能を活用させた教員の割合

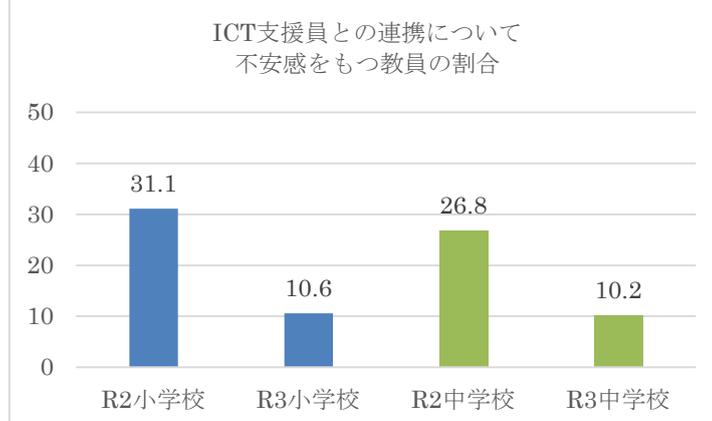


- ・ 新規指標のため令和2年度は測定なし
- ・ 目標値に達しなかった主な要因は、休校や選択登校の実施により、授業時数の確保が厳しくなり、知識伝達型の授業が多くなってしまったことが要因と考えられる。

(P9「主な課題と今後の対応方針」参照)

(3) 足立区 ICT 教育推進の基本方針指標以外の主な結果

① ICT 支援員との連携について不安感をもつ教員の割合



- ・ ICT 支援員の派遣回数が増加したことで、授業支援や校内研修の実施等の連携が進み、不安感が解消しつつある。

	<p><b>3 主な課題と今後の対応方針</b></p> <p>(1) 【課題】  「ICT 機器（デジタル）と従来の教具（アナログ）を効果的に組み合わせた授業の実施に困難を感じている教員の割合」は、小中共に目標値に未達であった。教員のタブレットを授業で活用することに加え、タブレット端末 1 人 1 台の活用について新たに不安を感じる教員がいることが要因であると考える。</p> <p>【対応方針】  モデル校による好事例の紹介、ICT 支援員の増配置、指導主事による校内研修やマンツーマンの指導や助言を通じて、不安感の解消に努めていく。</p> <p>(2) 【課題】  「協働的な学習の中で児童・生徒にプレゼン機能を活用させた教員の割合」について、休校等により授業時数が削減され、知識伝達型の授業に時間を費やしたため、小中ともに活用が低調であることが分かった。</p> <p>【対応方針】  協働学習が、原則として年間計画通りに実施できるよう、学校訪問等を通して指導主事による進行管理や、活用方法について指導や助言を行う。</p> <p>また、端末の活用が授業の目的のみでなく、情報活用能力の育成という視点からも、協働学習における端末活用の必要性を研修等で伝えていくとともに、好事例の紹介や指導主事による指導や助言を通じて、活用の促進を図っていく。</p> <p>(参考)  令和 4 年度研修体制について  ア 教員向け研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【初級】 1 年次、異動者向け基本操作研修、指導者用デジタル教科書研修</li> <li>・ 【中・上級】 ICT リーダー育成研修会（step 1、step 2、認定教育者受験）</li> <li>・ 【超初級】 Google サポート研修会（学校等のニーズに応じて指導主事を派遣。基本操作等の研修を実施）</li> </ul> イ 先行実践授業公開・管理職向け研修  ウ ICT 支援員による各校での研修や技術支援  エ 好事例の共有（学校 ICT ホームページ「あだち学校 ICT 情報ひろば」での事例紹介等）  オ モデル校教員向け Google 研修会（モデル校教員のスキル向上）  カ その他の支援体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導主事（Google 認定教育者）による学校訪問支援モデル校 Google 研修会</li> </ul> </p>
問題点 今後の方針	分かりやすい授業の実現や学力の定着を目指し、引き続き、ICT 機器の効果的な活用の促進を図る。

## 令和3年度 ICT関連各種指標結果

### 教育振興ビジョン基準結果

項目	対象		令和3年 (令和2年度)	ビジョン 令和6年度 基準
教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合	小学校	担任する学級において、週3回以上	<b>94.3%</b> (85.4%)	<b>80.0%</b>
	中学校	担当する全学級においての活用 (国・英・社:週2回以上、数・理:1回以上)	<b>89.5%</b> (82.1%)	<b>80.0%</b>
児童・生徒用タブレット端末を活用して授業を実施した教員の割合	小学校	担任する学級において、月1回以上	<b>76.3%</b> (41.0%)	<b>80.0%</b>
	中学校	担当する全学級においての活用 (国・英・社:半期当たり3回以上、数・理: 半期当たり5回以上)	<b>50.1%</b> (16.9%)	<b>50.0%</b>
プログラミング教育の実施回数(タブレット端末使用・教員の割合)	小学校	小学校4年生以上の担任で、半期に1回以上実施した教員	<b>68.9%</b> (80.7%)	<b>80.0%</b>
	中学校 (技術)	技術担当教員で、半期に1回以上実施した教員	<b>97.2%</b> (94.3%)	<b>80.0%</b>

### 令和3年度 基本方針活動指標結果

活動指標	アンケート項目	対象		令和3年度 (令和2年度)	令和6年度末目標
ICT機器(デジタル)と従来の教具(アナログ)を効果的に組み合わせた授業の実施に困難を感じている教員の割合	ICT機器(デジタル)と従来の教具(アナログ)を効果的に組み合わせた授業ができない	小学校	クラス担任	<b>22.6%</b> (22.0%)	10%未満
		中学校	5教科担当	<b>18.8%</b> (21.3%)	15%未満
授業で児童・生徒に学習用アプリケーション(eライブラリ)を活用させた教員の割合	授業でeライブラリを活用した頻度	小学校	クラス担任で、授業で5割以上使用した教員	<b>20.1%</b> (新設)	R3年度実績以上
		中学校	5教科担当で、授業で5割以上使用した教員	<b>10.7%</b> (新設)	R4年度再設定
授業の中で子ども達の端末を使ってインターネット検索を行わせた教員の割合 ※1	授業の中で子ども達に端末を使ってインターネット検索を行わせた頻度	小学校	3年生以上のクラス担任で、調べ学習で5割以上使用した教員	<b>56.2%</b> (新設)	R3年度実績以上
		中学校	5教科担当で、授業で5割以上使用した教員	<b>16.8%</b> (新設)	R4年度再設定
協働的な学習の中で児童・生徒にプレゼン機能を活用させた教員の割合 ※1	協働的な学習の中で発表やその準備のため子ども達にプレゼン機能(Googleスライドやドキュメントなど)を活用させた頻度	小学校	3年生以上のクラス担任で、協働学習で5割以上使用した教員	<b>34.3%</b> (新設)	70%
		中学校	5教科担当で、協働学習で5割以上使用した教員	<b>27.7%</b> (新設)	60%

文教委員会報告資料

令和4年4月20日

件名	「足立はばたき塾」に関する令和3年度塾生の進学状況及び令和4年度実施内容について									
所管部課名	教育指導部学力定着推進課									
内 容	<b>1 令和3年度足立はばたき塾生の進学先について</b> (1) 進学先一覧 (人)									
		進学指導重点校等 ※1								
	進学先 年度	進学指導 重点校	進学指導 特別推進校	進学指導 推進校	小計	都立 中高 一貫校	国立	その他 都立・ 私立	難関 私立	総計
	H24 ※2	5 (5.0%)	1 (1.0%)	31 (31.0%)	37 (37.0%)	6 (6.0%)	0 (0.0%)	57 (57.0%)	0	100
	H25 ※2	6 (8.1%)	5 (6.8%)	19 (25.7%)	30 (40.5%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	42 (56.8%)	2	74
	H26 ※2	4 (4.4%)	1 (1.1%)	30 (33.3%)	35 (38.9%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)	51 (56.7%)	2	90
	H27	1 (1.1%) [受験者 4]	3 (3.2%) [受験者 5]	23 (24.7%) [受験者 32]	27 (29.0%) [受験者 41]	1 (1.1%) [受験者 1]	0 (0.0%) [受験者 0]	65 (69.9%)	2	93
	H28	0 (0.0%) [受験者 2]	2 (2.7%) [受験者 2]	24 (32.9%) [受験者 29]	26 (35.6%) [受験者 33]	2 (2.7%) [受験者 2]	1 (1.4%) [受験者 2]	44 (60.3%)	3	73
	H29	4 (4.4%) [受験者 5]	8 (8.8%) [受験者 14]	27 (29.7%) [受験者 33]	39 (42.9%) [受験者 52]	3 (3.3%) [受験者 3]	0 (0.0%) [受験者 0]	49 (53.8%)	1	91
	H30	3 (3.6%) [受験者 4]	9 (10.7%) [受験者 12]	21 (25.0%) [受験者 36]	33 (39.3%) [受験者 52]	5 (6.0%) [受験者 5]	1 (1.2%) [受験者 1]	45 (53.6%)	2	84
	R1	4 (4.6%) [受験者 7]	8 (9.2%) [受験者 8]	33 (37.9%) [受験者 37]	45 (51.7%) [受験者 52]	3 (3.4%) [受験者 3]	1 (1.1%) [受験者 1]	38 (43.7%)	4	87
	R2	3 (5.1%) [受験者 7]	4 (6.8%) [受験者 5]	16 (27.1%) [受験者 18]	23 (39.0%) [受験者 30]	3 (5.1%) [受験者 3]	0 (0.0%) [受験者 0]	33 (55.9%)	3	59
	<b>R3</b>	3 (3.7%) [受験者 7]	8 (9.9%) [受験者 12]	21 (25.9%) [受験者 28]	32 (39.5%) [受験者 47]	0 (0.0%) [受験者 0]	1 (1.2%) [受験者 2]	48 (59.3%)	5	81
※1：生徒の進学希望を実現させることができる都立高校として都教育委員会が指定 全186校中、進学指導重点校7校、進学指導特別推進校7校、進学指導推進校13校 ※2：26年度以前の受験者数は未調査										

## (2) 進学先の志望順位

(人)

年度 \ 順位	第一志望	第二志望	その他	全体
H28	45(67.2%)	15(22.4%)	6(9.0%)	67
H29	66(72.5%)	20(22.0%)	5(6.6%)	91
H30	57(67.9%)	17(20.2%)	10(11.9%)	84
R 1	74(85.1%)	10(11.5%)	3(3.4%)	87
R 2	46(78.0%)	11(18.6%)	2(3.4%)	59
<b>R 3</b>	55(67.9%)	21(25.9%)	5(6.2%)	81

注1：( )内は受講者全体における志望校合格達成者の割合

注2：28年度は、参加者73人中アンケートに回答のあった67人の生徒の志望校順位から算出。また、27年度以前は未調査

## 2 令和4年度足立はばたき塾の実施について

### (1) 実施事業者

株式会社エデュケーションアルネットワーク（8年目）

### (2) 令和4年度塾生（第11期生）

93名（第1次募集）

※ 入塾申込者（132名）のうち、所得審査通過者（107名）を対象に学力診断テストを実施（受検者103名、辞退者4名）し、はばたき塾生93名を決定した。

### (3) 講座概要

- ・ 4月2日(土)より開始(定期講座40回、夏・冬季集中講座15日)
- ・ 数学・英語を中心とした5教科
- ・ 会場はこども支援センターげんき

問題点  
今後の方針

生徒の在籍校と事業者との連絡を密にしつつ効果的な学習支援を行い、塾生の志望校合格を目指していく。

なお、定員（100名）に空きがあるため、令和4年5月に第2次募集の学力診断テストを行い、追加入塾者を決定する。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

件 名	令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都調査）の調査結果について																				
所管部課名	教育指導部学力定着推進課																				
内 容	<p>令和3年10月27日から12月9日にかけて実施した令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について、以下のとおり調査結果を報告する。</p> <p><b>1 実施方法等について（令和3年度調査より変更）</b></p> <table border="1" data-bbox="400 734 1425 1189"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>実施方法</b></td> <td>ペーパー方式</td> <td>Web方式</td> </tr> <tr> <td><b>対象学年</b></td> <td>小学校：5年生 中学校：2年生</td> <td>小学校：4～6年生 中学校：1～3年生</td> </tr> <tr> <td><b>調査内容</b></td> <td>小学校：国語・社会・算数 理科・意識 中学校：国語・社会・数学 理科・英語・意識</td> <td>小学校：意識調査のみ 中学校：意識調査のみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 新学習指導要領で育む資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）のうち、都調査においては、「<u>学びに向かう力</u>」等を中心に把握することを目的とする。</p> <p><b>2 実施日</b></p> <table border="1" data-bbox="400 1485 1425 1798"> <thead> <tr> <th>対象学年</th> <th>調査実施期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小4及び中1</td> <td>R3. 11. 26 から R3. 12. 9 までの間</td> </tr> <tr> <td>小5及び中2</td> <td>R3. 11. 11 から R3. 11. 25 までの間</td> </tr> <tr> <td>小6及び中3</td> <td>R3. 10. 27 から R3. 11. 10 までの間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 実施日は、調査実施期間内において各学校が設定</p>		変更前	変更後	<b>実施方法</b>	ペーパー方式	Web方式	<b>対象学年</b>	小学校：5年生 中学校：2年生	小学校：4～6年生 中学校：1～3年生	<b>調査内容</b>	小学校：国語・社会・算数 理科・意識 中学校：国語・社会・数学 理科・英語・意識	小学校：意識調査のみ 中学校：意識調査のみ	対象学年	調査実施期間	小4及び中1	R3. 11. 26 から R3. 12. 9 までの間	小5及び中2	R3. 11. 11 から R3. 11. 25 までの間	小6及び中3	R3. 10. 27 から R3. 11. 10 までの間
	変更前	変更後																			
<b>実施方法</b>	ペーパー方式	Web方式																			
<b>対象学年</b>	小学校：5年生 中学校：2年生	小学校：4～6年生 中学校：1～3年生																			
<b>調査内容</b>	小学校：国語・社会・算数 理科・意識 中学校：国語・社会・数学 理科・英語・意識	小学校：意識調査のみ 中学校：意識調査のみ																			
対象学年	調査実施期間																				
小4及び中1	R3. 11. 26 から R3. 12. 9 までの間																				
小5及び中2	R3. 11. 11 から R3. 11. 25 までの間																				
小6及び中3	R3. 10. 27 から R3. 11. 10 までの間																				

### 3 調査結果から見られた傾向

#### (1) 学習の動機について

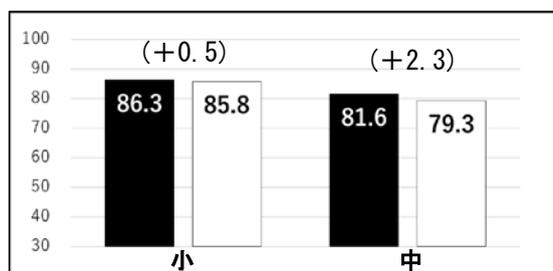
##### ア 考察

他者との比較や賞罰的なものよりも、自らの目標や価値観による動機付けの数値が高い傾向にある。今後も、学ぶことへの興味と努力し続けることの大切さを実感させながら、学びに向かう力を育てていくことが重要である。

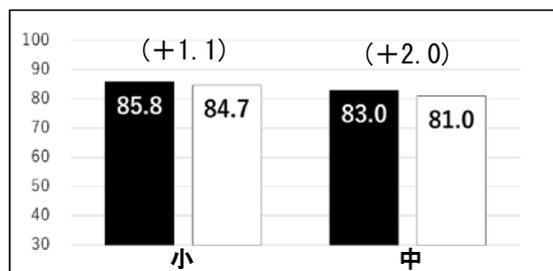
##### イ 主な設問の結果（区と都の比較）【単位：%】

区：  
都：

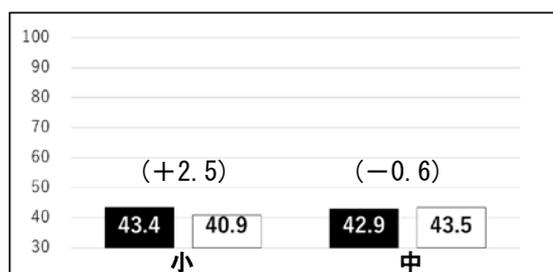
(ア) しっかりと考えられるようになりたいから



(イ) 将来の仕事や生活に役立つから



(ウ) 先生や家の人にほめられたり、ごほうびをもらえたりするから



## (2) 学習の進め方について

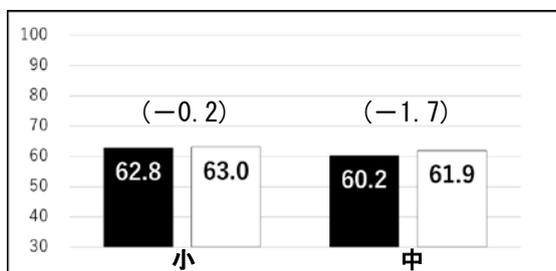
### ア 考察

自ら学ぼうとする姿勢は比較的高い傾向にあるが、他者との関わり合いに関する項目は全体的に低い傾向にある。対話を通じて自分と他者の意見や考え方を比較することにより、新たな気付きを得て、自分の考えを広げ深めるなど、協働的な学習の質を高めていく必要がある。

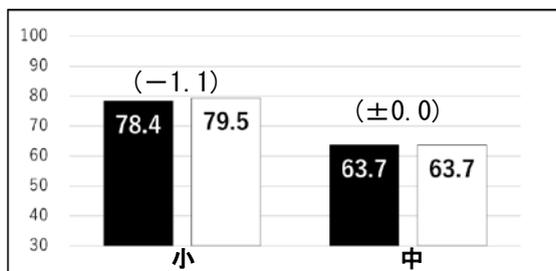
### イ 主な設問の結果（区と都の比較）【単位：%】

区：    
 都：

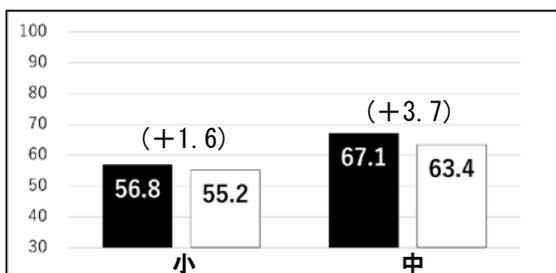
(ア) 確実にできるようになるまで、くり返し練習している



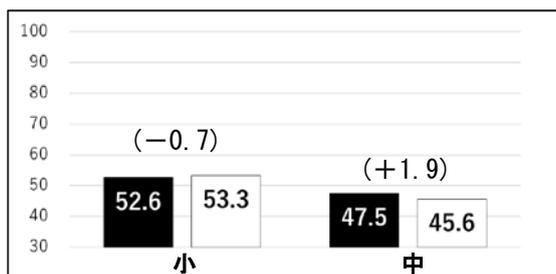
(イ) 難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる



(ウ) 他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている



(エ) 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている

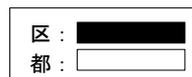


### (3) 学習習慣について

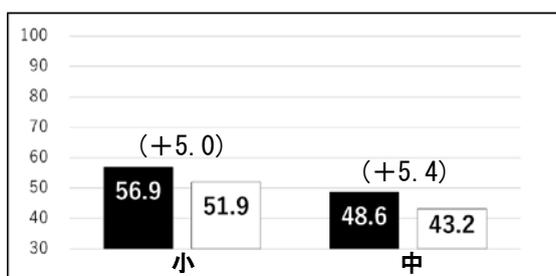
#### ア 考察

都平均を大きく上回っているものの、予習・復習への取り組み等の学習習慣についての数値が全体的に高いとは言えない傾向にある。今後導入予定のAIドリルの有効活用により、家庭学習と関連づけながら、学習した内容の習得に繋げていく必要がある。

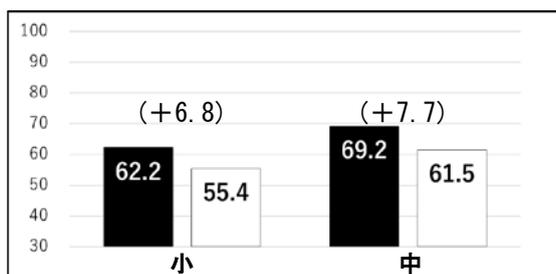
#### イ 主な設問の結果（区と都の比較）【単位：%】



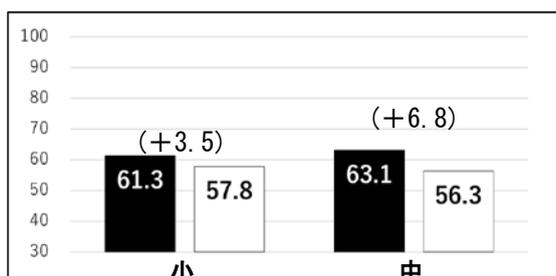
(ア) 教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようになっている



(イ) 教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようになっている



(ウ) 授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを調べるようになっている

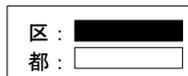


#### (4) 学習指導の工夫について

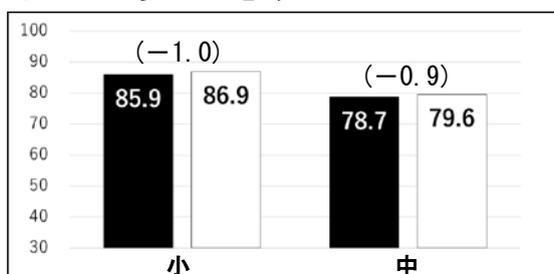
##### ア 考察

いずれも高い数値となっており、足立スタンダードに基づく授業改善が進んでいる様子が見て取れる。特に、「授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。」については、都平均を大幅に上回っている。

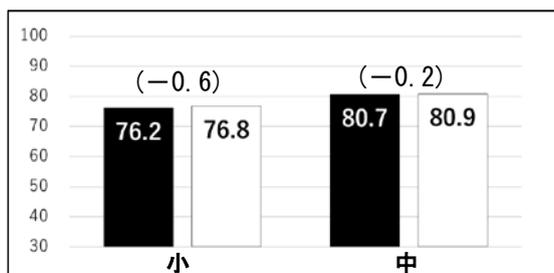
##### イ 主な設問の結果（区と都の比較）【単位：%】



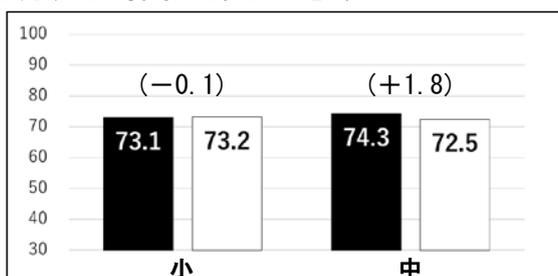
(ア) 授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う



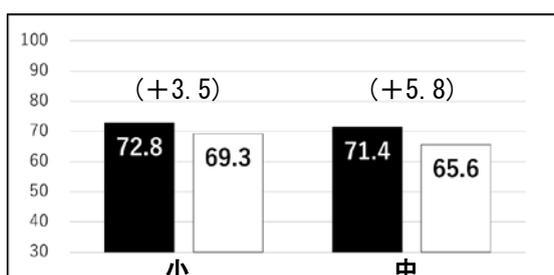
(イ) 授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う



(ウ) 授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う



(エ) 授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う



問題点 今後の方針	足立スタンダードに基づく授業実践やICTの有効活用により、主体的な学びとともに、対話的な学びの充実を図り、「学びに向かう力」等を育成していく。
--------------	---

文教委員会報告資料

令和4年4月20日

件名	令和4年度教育課程の方針について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	<p>令和4年度教育課程の編成方針について、以下のとおり報告する。</p> <p><b>1 教育指導課の方針</b> 各学校で作成する教育課程について、令和4年度からSDGsの実現を視点として編成させる。</p> <p><b>2 教育指導課方針の根拠</b> 学習指導要領の前文において、「学校は、児童・生徒を持続可能な社会の創り手となるように育成することが求められる。」という趣旨が明示された。 また、足立区においては、SDGsを、「足立区基本計画」にならい、教育課程に示すそれぞれの教育活動をSDGsの各目標と関連付けることとした。</p> <p><b>3 教育指導課方針決定の経緯</b> 教育課程は、学校の教育活動を大望的に示したものであり、学校の特色が大いに表現されるものであるが、近年、学校ごとの記述内容に大差がなく、ともすれば教育課程が形骸化してしまう状況が散見された。 そこで、2015年に国連サミットで採択された国際目標であるSDGsを教育課程に盛り込むことにより、学校がSDGsの各目標と関連付けながら、それぞれの特色に応じた教育活動を展開することをねらいとして方針を決定した。</p> <p><b>4 具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の教育課程に記載する教育活動をSDGsの視点から捉えなおす。</li> <li>・ 各学校の教育課程に記載された教育活動と共に、SDGsアイコンを添付する（学校が取り組む視点によって、同じ教育活動でも、添付するアイコンは変化する）。</li> <li>・ 各学校が重点的に取り組む目標と、その達成のために推進する教育活動をA4用紙1枚にまとめ、保護者、地域等に配布する。</li> </ul>
問題点 今後の方針	令和4年度学校評価において、SDGsの達成のための質問項目を新設させ、各学校の取組をより良いものにしていく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

件 名	令和4年度中の欠席連絡ツールの確保について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内 容	<p><b>1 目的</b> 令和5年度の学校メールシステム更新までの間の、オンラインによる欠席連絡方法を確保する。</p> <p><b>2 使用ツール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度からWEBQUが付随するクラウドサービスである「まなびポケット」を活用</li> <li>・ 「まなびポケット」の費用は無料</li> </ul> <p><b>3 今後の進め方</b></p> <p>① 令和4年4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員向け「まなびポケット」設定の説明会を開催</li> <li>・ 保護者に「まなびポケット」の案内を送付</li> <li>・ 各校で「まなびポケット」へ児童・生徒等の情報を登録</li> </ul> <p>② 令和4年5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まなびポケット」を利用した欠席連絡の運用を開始</li> </ul> <p>③ 令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「C4th Home &amp; School」を利用した、新しい欠席連絡ツールに移行する予定</li> </ul>
問 題 点 今後の方針	「まなびポケット」については、令和4年度からの運用開始に向け、準備を進めていく。

文教委員会報告資料

令和4年4月20日

件名	あだち日本語学習ルームの令和3年度修了判定結果について							
所管部課名	教育指導部教育指導課							
内 容	<p><b>1 指導実施人数</b> 16名（内 14名修了）【令和2年度 28名（内 20名修了）】 ※ 未修了生徒は、第2学年1名、第1学年1名</p> <p><b>2 修了判定方法</b> 担当日本語講師が指導後の記録をもとに判定に関する素案を作成し、講師全員で協議して終了の可否を判定、決定する。</p> <p>(1) 評価領域 「関心・意欲・態度」「話す」「読む」「書く」「聞く」</p> <p>(2) 評価基準 4:よくできる 3:概ねできる 2:あまりできない 1:できない</p> <p>(3) 修了判定基準 各評価領域の評価が概ね3に達すること。 ※ 「都立高等学校の入学者選抜に係る学力検査」に対応できる日本語の力を身に付けること。</p> <p><b>3 修了判定詳細（令和4年2月現在）</b></p>							
			生徒数		修了者	修了率	(*) 平均指導時間	
	通級開始時期		(内)	学年				人数
	令和2年度から継続		8名	3年	6名	8名	100%	213時間
				2年	2名			
	令和3年度	5月	5名	3年	1名	5名	100%	178時間
				2年	3名			
				1年	1名			
		10月	1名	2年	1名	1名	100%	150時間
		11月	1名	2年	1名	0名	0%	48時間
・ 家庭の事情で不在のため、次年度に継続								
12月	1名	1年	1名	0名	0%	57時間		
・ 指導時間不足のため、次年度に継続								
合計		16名	3年	7名	14名	令和4年度に継続→		
			2年	7名		第2学年	1名	
			1年	2名		第1学年	1名	
※ 日本語習得状況と所属校での授業参加状況により、週1～11時間（平均5～6時間程度）の指導を実施								

	<p><b>4 考察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度指導を始めた生徒は、母語での支援を含めた個別指導に重点を置くことで、日常生活における困難を解消することができた。</li> <li>・ 人数が少ないことにより、コミュニケーションによる「話す」力の育成の時間が十分に確保できなかったため、指導者を交えたグループ活動を積極的に取り入れる必要がある。</li> <li>・ 昨年度同様、修了者の通算指導時間は180時間前後であり、日本語習得には一定の指導時間の確保が必要である。</li> <li>・ 指導時間の確保策の一つとしてICTの活用も視野に入れる必要がある。</li> <li>・ 講師間の指導力の差を埋めつつ、全体のレベルアップを図る必要がある。</li> </ul> <p><b>5 令和4年度の方針</b></p> <p>以下の方針で指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「母語での支援を中心とする初期段階の個別指導」から、「習熟度別のグループ指導」への移行を円滑にし、より効率的・効果的な指導を目指す。</li> <li>・ 虐待などの可能性も考慮しつつ、通室する生徒の家庭状況を学校とともに確認するよう、講師全員の理解を深める。</li> <li>・ 今年度同様、日本語習得に必要な一定の指導時間数を確保する。</li> <li>・ ICTを活用したオンライン型指導の試行を取り入れ、生徒の反応などを検証する。</li> <li>・ OJTを含む研修や四中夜間学級との交流等を通じ、講師のスキルの底上げとレベルアップを進める。</li> </ul>
<p>問題点 今後の方針</p>	<p>令和4年度については、上記5の方針に基づき運営していく。</p>

# 文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

件 名	小学校社会科副読本「わたしたちの足立」の改訂方法の見直しについて
所管部課名	教育指導部教育指導課
内 容	<p>小学校3年生の社会科では地域の内容を取り扱うことから、小学校の社会科担当教員が社会科副読本の執筆に携わってきた。しかし、以下の課題があるため、見直しを図り、質の向上を目指す。</p> <p><b>1 現状と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急速な社会情勢の変化に伴い、社会科副読本の記載内容に多くの刷新が求められていること。</li> <li>・ 著作権や引用データ等、多くの配慮事項を考慮しながら制作する必要があること。</li> <li>・ 改訂委員会だけで作業を行うのは、困難になってきていること。</li> </ul> <p><b>2 改訂委員会の構成の見直し</b></p> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校教員16名で構成</li> <li>・ 教育指導課 指導主事(事務局)</li> </ul> <p>(2) 見直し案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学識経験者</li> <li>・ 小学校長</li> <li>・ 郷土博物館学芸員</li> <li>・ 教育指導課 指導主事</li> <li>・ 小学校社会科担当教員</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p> <p>※ 人数については、今後検討していく。</p> <p><b>3 編集方法の見直し</b></p> <p>(1) 現状</p> <p>委嘱した小学校教員が担当ページの取材及び執筆を行い、教育指導課にて校正を行っている。</p> <p>(2) 他区の状況</p> <p>台東区や北区においては、改訂委員会として小学校の社会科担当教員や学識経験者の意見をまとめ、出版社に執筆・編集を委託している。</p> <p><b>4 令和4年度の予定</b></p> <p>4月 新たな改訂委員会の結成・改訂作業開始</p> <p>11月 改訂作業終了</p> <p>3月 印刷及び発送</p>
問 題 点 今後の方針	小学校社会科副読本としての情報の正確性・妥当性を高めるために、教育委員会が主となり作成に関わっていく。今後も区長と相談の上、進めていく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年4月20日

件 名	給食調理室エアコン設置に係る取組について
所 管 部 課 名	学校運営部 学校施設管理課 施設営繕部 中部地区建設課、東部地区建設課、西部地区建設課
内 容	<p>給食調理室エアコン設置に係る取組について、令和4年度設置分(46校)の契約を締結したため、以下のとおり報告する。</p> <p><b>1 契約概要</b></p> <p>(1) 契約日 令和4年2月7日</p> <p>(2) 契約事業者 NTT・TCリース株式会社</p> <p>(3) 契約金額 655,518,600円(税込み) (1校あたり約1,425万円)</p> <p>(4) 対象校及びリース期間 P25参照</p> <p><b>2 今後のスケジュール</b></p> <p>令和4年3月～ 業者による各校現地調査</p> <p>令和4年3月末～9月 各校工事(給食場内の工事は夏休み期間中に実施)</p> <p>令和4年9月1日 試運転開始</p> <p>令和4年10月1日 本運転開始(リース期間開始)</p>
問 題 点 今後の方針	<p>令和4年度設置分についての進捗管理を適切に行う。</p> <p>令和5年度設置予定の44校について、8月末までに事前調査を完了させ、その後、設置に向けた基本設計等をまとめ、報告する。</p>

# 令和4年度設置校一覧(全46校)

## 小学校(29校)

番号	番号	小学校	住所	賃貸借期間	所管課
2	1	足立小学校	足立三丁目11番5号		東部
4	2	伊興小学校	伊興四丁目16番1号		西部
5	3	梅島小学校	梅田七丁目35番1号		西部
6	4	梅島第一小学校	梅島三丁目37番4号		西部
10	5	大谷田小学校	中川四丁目41番27号		東部
12	6	加平小学校	六町三丁目3番11号		東部
13	7	亀田小学校	西新井栄町一丁目1番1号		西部
17	8	弘道小学校	西綾瀬四丁目7番27号		東部
18	9	弘道第一小学校	弘道一丁目20番8号		東部
21	10	鹿浜五色桜小学校	鹿浜四丁目20番22号		西部
23	11	島根小学校	島根三丁目28番11号		西部
24	12	新田学園第二校舎	新田三丁目30番16号		西部
25	13	関原小学校	関原三丁目38番3号		西部
27	14	千寿常東小学校	千住旭町10番31号	90か月	中部
29	15	千寿双葉小学校	千住大川町17番1号		中部
30	16	千寿本町小学校	千住三丁目30番地		中部
31	17	竹の塚小学校	竹の塚一丁目8番1号		西部
36	18	中川小学校	大谷田三丁目17番20号	114か月	東部
41	19	西新井小学校	西新井本町四丁目9番27号		西部
44	20	西伊興小学校	伊興二丁目6番1号		西部
46	21	花畑小学校	南花畑三丁目22番1号		東部
47	22	花畑第一小学校	花畑一丁目29番1号		東部
50	23	東伊興小学校	東伊興一丁目4番15号		西部
52	24	東栗原小学校	一ツ家三丁目20番1号		東部
53	25	東浏江小学校	東和三丁目20番11号	66か月	東部
56	26	浏江第一小学校	保木間三丁目27番1号		東部
57	27	保木間小学校	竹の塚三丁目6番3号		西部
58	28	宮城小学校	宮城一丁目27番25号	78か月	中部
61	29	弥生小学校	中央本町二丁目5番1号		東部

## 中学校(17校)

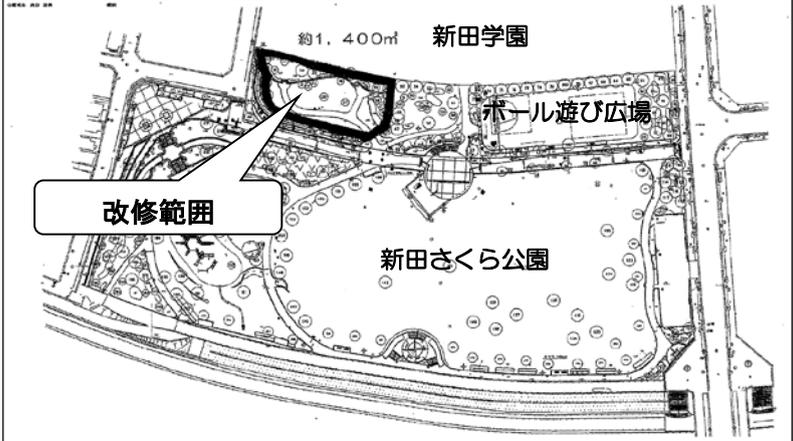
番号	番号	中学校	住所	賃貸借期間	所管課
1	30	第一中学校	千住河原町4番7号		中部
2	31	第四中学校	梅島一丁目2番33号		西部
3	32	第五中学校	西新井本町二丁目3番1号		西部
4	33	第七中学校	関原三丁目32番14号		西部
6	34	第十中学校	梅島三丁目23番3号		西部
8	35	第十二中学校	大谷田一丁目37番1号		東部
9	36	第十四中学校	西竹の塚一丁目8番1号		西部
10	37	青井中学校	青井四丁目19番1号		東部
12	38	入谷中学校	入谷三丁目6番1号		西部
14	39	扇中学校	扇三丁目18番14号		西部
17	40	栗島中学校	中央本町五丁目23番1号		東部
19	41	新田学園第一校舎	新田三丁目34番2号		西部
21	42	竹の塚中学校	西保木間四丁目12番13号		西部
22	43	西新井中学校	西新井七丁目22番1号		西部
23	44	花畑中学校	花畑一丁目31番1号		東部
24	45	花畑北中学校	花畑六丁目12番35号		東部
27	46	浏江中学校	保木間三丁目6番6号	102か月	東部

※ 賃貸借期間の欄に記載ない学校は120か月(令和4年10月1日～令和14年9月30日)

※ 改築予定校については、工事予定に合わせてリース期間を短縮

文教委員会報告資料

令和4年4月20日

件名	新田さくら公園の改修工事について
所管部課名	学校運営部 学校施設管理課 道路公園整備室 パークイノベーション推進課
内容	<p>文教委員会「新田学園の児童・生徒が活発に活動できる環境整備を求める陳情」への対応として、以下のとおり改修工事を実施するので報告する。</p> <p><b>1 改修範囲</b>                  新田さくら公園の生きものふれあい広場部分                  (約1,400㎡)</p>  <p><b>2 改修のスケジュール</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和4年5月から8月末まで</li> <li>(2) 作業期間中、生きものふれあい広場の使用を中止する。</li> <li>(3) 作業中、工事車両が園内を通行するため、ガードマンを配置するなどにより、安全を確保する。</li> </ol> <p><b>3 改修内容 (P28参照)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) かくれんぼや鬼ごっこが楽しめるよう、起伏(石積み)や樹木を残す。</li> <li>(2) ドッジボールや鬼ごっこなど多目的に使い、走り回れるよう、広場中央を草地から真砂土舗装にする。</li> <li>(3) 読書やおしゃべりが楽しめるよう、腰かけになる石積みを残すとともに、ベンチやテーブルを配置する。</li> <li>(4) 学校との出入りが容易になるよう、園路を整備する。</li> <li>(5) 記念樹を植樹する。</li> </ol>

	<p><b>4 改修内容を定めた経緯について</b> 改修内容は次の手順で決定した。</p> <p>(1) 新田学園の5、6年生433名を対象にアンケートを実施</p> <p>(2) アンケートを基に改修案を作成</p> <p>(3) 改修案を次のとおり周知し、意見を伺った。</p> <p>ア 開かれた学校づくり協議会委員に資料郵送（1月31日）</p> <p>イ 新田まちづくり連絡会会員に資料郵送</p> <p>ウ 現地に改修案を掲示（2月4日から3月4日まで）</p> <p>(4) 改修案に対し寄せられた意見 特になし</p> <p><b>5 改修内容の周知について</b> 改修内容について、次のとおり新田まちづくり連絡会に報告した。</p> <p>(1) 日時 令和4年3月17日（木）午後6時30分から</p> <p>(2) 場所 新田地域学習センター2階 第1・2学習室</p> <p>(3) 主な質疑</p> <p>Q1：改修する公園の舗装が土系だが、芝生にする案はないのか。</p> <p>A1：芝は維持が難しく、雨に濡れると遊びづらいので、この舗装を選択した。</p> <p>Q2：学校や一般利用者が利用できる時間を、どのように割り振るのか教えてほしい。</p> <p>A2：まずは、学校や放課後子ども教室の希望時間帯を聞き、それ以外を一般の方が利用する方向で検討していく。</p>
<p>問 題 点 今 後 の 方 針</p>	<p>児童が活発に活動できる環境を整備するため、開かれた学校づくり協議会やまちづくり連絡会等へ丁寧に情報提供を行い、整備を進めていく。</p>

# 新田さくら公園生きものふれあい広場 改修内容

新田学園5, 6年生433名に行ったアンケート結果をもとに、多様な使い方ができる広場を整備します。

- (1) かくれんぼや鬼ごっこが楽しめるよう、起伏(石積み)や樹木を残します。
- (2) ドッジボールや鬼ごっこなど、多目的に使用できる真砂土舗装広場を整備します。
- (3) 読書やおしゃべりが楽しめるテーブルやベンチを整備します。
- (4) 学校との出入りがしやすくなるよう園路を整備します。
- (5) 今回の改修を記念した記念樹(ライラックを予定)を植樹します。



・かくれんぼ等の遊びに活用できるように石積みや樹木を残します。



(2) 真砂土舗装広場(イメージ)

・鬼ごっこやドッジボールなど、多目的に使える真砂土舗装広場を整備します。



(3) テーブルベンチ(イメージ)

・読書やおしゃべりに使えるテーブルやベンチを設置します。

